

令和3年度宮崎県立図書館評価の概要

令和4年10月 日
宮崎県立図書館

1 趣旨

図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年12月19日文部科学省告示第172号）に基づき、宮崎県立図書館のサービスの水準の向上を図り、図書館の目的及び社会的使命を達成するため、取組状況について評価を行うものである。

2 評価対象

「宮崎県立図書館ビジョン」に基づく第2期アクションプランに規定する「今後の施策展開の方向性」に係る取組の実績。

3 評価項目等

- (1) 第2期アクションプランに規定する「今後の施策展開の方向性」を評価の大項目（6項目）、各「今後の施策展開の方向性」の下に示されている「施策」を中項目（21項目）、各「施策」の下に示されている「取組事項」（施策の項目）を小項目（44項目に「貸出冊数」を加えた45項目）として設定。
- (2) アクションプランに記載された数値目標についてはそのまま評価指標として採用し、目標最終年度もそのまま令和5年度とした。

4 評価方法

- (1) 自己評価（中項目ごと：21）

当館において、21の中項目ごとに令和元年度の事業実績を踏まえて自己評価を行い、主な取組状況・成果、課題等を付記した。

- (2) 外部評価（大項目ごと：6）

宮崎県立図書館協議会において、上記(1)の自己評価を参考に、6つの大項目ごとに評価を行い、今後の取組等に関する意見を付記した。

5 評価基準

自己評価、外部評価とも、4段階で評価した。

評価	評価基準の内容	
A	非常に良好である	成果が出ている。
B	良好である	一定の成果が出ている。
C	やや不十分である	一部に成果が上がっていない項目がある。
D	不十分である	成果があまり上がっていない。

6 評価結果

(1) 評価結果一覧

大項目 (「今後の施策の方向性」)	中項目 (「施策」)	自己 評価	外部 評価
Ⅰ 全県的な読書 環境と図書館ネ ットワーク構築 の核	1 市町村立図書館（室）等の支援	B	B
	2 学校図書館の支援	B	
	3 市町村立図書館、学校図書館、大学図書館等との ネットワークの構築	A	
	4 図書館活動を支える施設・システムの維持管理	B	
Ⅱ 県立図書館な らではの専門的 なサービスの充 実	1 レファレンスサービスの充実	B	B
	2 専門的な資料・情報の収集・整理・保存・提供	B	
	3 生涯読書活動の推進	B	
	4 他の専門機関との連携	A	
	5 館外活動の実施	B	
Ⅲ 「知の共有・ 創造」による深 い学びや課題解 決の支援	1 情報アクセス環境の整備	B	B
	2 課題に応じた情報サービスや「知の共有・創造」 の場の提供	B	
	3 政策立案の支援	B	
	4 地域の実情に応じた課題解決型サービス	A	
Ⅳ みやぎの文 化の理解・継承 の促進	1 地域資料の収集・保存・活用の全県的な促進	C	A
	2 地域情報の収集・整理・発信	B	
	3 地域情報のデジタル化・データベース化	B	
	4 本県の言語文化の継承	A	
Ⅴ 図書館ネット ワークを支える 人財の育成	1 専門的なサービスを支える人財の育成・確保	B	B
	2 新たな知識の習得・共有	C	
	3 組織及び事業の改善	B	
新型コロナウイルス感染症へ対応した運営		B	B

(2) 外部評価に係る意見（主なもの）

【大項目Ⅰ 全県的な読書環境と図書館ネットワーク構築の核】

- マイライン、相互貸借による配送システムの確立で県民財産として活用できることになった。自治体図書館の規模にかかわることなく有意資料の向上、読書環境の向上に繋がっている。「読書県」宮崎の成果の一つである。
- 「市町村支援チーム」による巡回訪問は各自治体図書館の現状把握と相互信頼となり、自治体図書館にとっては早期の課題の解決となっている。
- コロナ禍の中、県内全ての図書館（室）訪問や職員を派遣しての研修等は非常に評価できる。
- 高校教育課主催の研修会や図書館部会等の会議等に参加して、マイライン等の宣伝等を充実させて、県立学校との接点を持ち続けて欲しい。
- ホームページ上に学校支援のブックリスト等があるのはいい。子ども達に関心を深められるようなサイエンス関連のブックリストがあるといい。

【大項目Ⅱ 県立図書館ならではの専門的なサービスの充実】

- 国会図書館協同データベースに県立図書館のレファレンス事例集があり、活用できることはありがたい。提供されるレファレンス通信で調査に必要な関係機関の情報を得ることができ、自治体図書館のレファレンス向上となっている。
- 蓄積する書籍の保管や整理、防災上のリスクマネジメントを考えてもデータ管理する事は重要である。
- 高等学校においても生徒一人1台パソコンを持つ環境が整備されたことに伴い、有料データベースの導入など、学習スタイルが一変している。積極的に電子書籍等の導入を検討してほしい。
- GIGAスクール構想により、小中学校では児童・生徒が一人1台のパソコンを利用できる環境が整備されている。それを受け、全国的に、教育委員会や公立図書館、または学校で児童・生徒向けの電子書籍を導入、貸出し始めている。個々の図書館では予算的にも導入できるコンテンツに限られるため、長野県のような県内市町村・県による共同利用等の方法について県立図書館が中心となり検討してほしい。

- 電子書籍の推進は今後の社会環境の変化により、避けては通れない。全国の図書館では既に推進している図書館も見受けられる。国を挙げてDX化が進められ、若者のほとんどは本を買わず電子書籍で本を読んでいる。県立図書館の機能を今後も県民に等しく果たしていく為には、できない理由を羅列するのではなく、既存の価値観から飛び出し導入に向けて積極的に検討し即実行していかなくては間に合わないだろう。
- 障がい者等の読書弱者の方へ向けた取り組みもまだまだ伝わってこない。ユニバーサルデザインの活用や、来館窓口でコンシェルジュの配置など、多様性へ門戸を広げた態度を是非示して欲しい。
- 障がいのある方への提供はきめ細やかなサービスが重要と考える。関係機関との連携がとれており評価できる。
- 青少年自然の家のような子どもが活動する施設や、観光客等が宿泊するホテル等の施設に図書館の本を置くなどのサービスも考えてほしい。
- （青少年自然の家等の子どもが活動する施設やホテル等での貸出等については）各地域の市町村立図書館に任せ、県立図書館ではここまでサービスをしなくて良いと考える。
- 多様な関係機関や大学、NPO等と連携しながら、感染禍でも各種展示やイベント等を実施し、ニーズに応じてきたことは高く評価できる。

【大項目Ⅲ 「知の共有・創造」による深い学びや課題解決の支援】

- ホームページが何を一番伝えたいのか分かりにくい。アイコン、サイン、バナー等を工夫し、文字だけでなくデザインでも伝わるユニバーサルデザインを意識してほしい。司書が持つスキルを発信する場が少なく感じる。利用者も職員に話しかけづらく尻込みして帰っている方も多いと思われる。各専門的な知識を持つ職員をジャンルごとに顔写真を載せて紹介するなどの工夫があるといい。県立図書館と市立図書館との違いを知らない方も多い。知らせる工夫が必要。
- 新刊資料を含め、書誌情報の内容や目次が詳細になり、書誌検索時にヒットしやすく、書誌情報の充実を実感している。
- 県立図書館として市町村立図書館への支援をしっかりと取り組んでほしい。

【大項目Ⅳ みやざきの文化の理解・継承の促進】

- 文化講座をオンライン配信し、地域の図書館においても参加できると良い。
- 県内各自治体を直接訪問して、地域資料の重要性を周知してきたことは有効であった。今後も市町村立図書館へのサポートをお願いしたい。
- 人口減少により地域の消滅が現実的になってきた現代だからこそ、地域の歴史や文化を保存し後世へ伝えていく機能は、宮崎県立図書館に強く求められる機能だと思われる。貴重書のデジタル化推進も含め、郷土史の研究に是非力を入れて頂きたい。
- 貴重書のデジタルアーカイブをさらに充実して欲しい。欲を言えばカラーでさらに高精細な画像を公開してほしい。

【大項目Ⅴ 図書館ネットワークを支える人財の育成】

- 人材育成やネットワーク構築を促進しているのは伝わってきた。ただやはり正職員と会計年度任用職員のバランスはいびつであり、「県立図書館で働きたい!」「司書になり生涯働きたい!」となりにくい状況である。公的な仕組み上、現状を変えるのは難しい面も理解できるが、宮崎県で最上位の図書館に夢が無くては、宮崎県内の図書館の未来は頭打ちである。行政の仕組みを変えるためにも外部評価委員の意見が重要である。図書館員だけでなく、評価委員も力を合わせ、県民の声を交えながら現状を打破できたらと考える。

雇用体制は組織の意志が最も伝わる部分である。県立図書館の重要性を認識した雇用体制の充実を、是非宮崎県には示して頂き、「宮崎県立図書館で司書として働きたい!」という人材を増やして頂きたい。

それが最善であり、様々な課題解決への一番の近道だと考える。人材は財産であり、人材無くして県立図書館は存続できない。蔵書の蓄積だけではなく、人材の蓄積こそ急務であると捉えるべきである。
- 職員のスキルアップを行う研修や、市町村立図書館への支援を積極的に行っているのは伝わってきた。その意識と実行力は高く評価できる。ただその学んだスキルを発揮できている印象が低い。インプットだけではなく、アウトプットをより意識しその機会を増やして頂きたい。学ぶ内容もSNS活用やコミュニケーション、マーケティング、コーチングなど多様な学びの機会を増やして頂き、利用者の満足度向上へ繋げて頂きたい。アウトプットの機会がやりがいに繋がり、職員の満足度向上へ繋がる。それが利用者への満足度向上へ繋がる。

- 県立図書館の研修等支援により、市町村立図書館（室）の会計年度任用職員が何度も入れ替わった場合でも、図書館サービスの急激な低下を防ぐことができているように思われる。

【大項目 新型コロナウイルス感染症への対応した運営について】

- 課題を把握し対策を講じている。